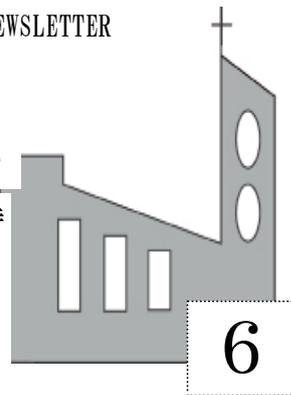


カトリック 大名町教会ニュース

DAIMOUMACHI CATHOLIC CHURCH NEWSLETTER



〔ミサ時間〕 主日：7時・9時30分/ベトナム語（第2・第4日曜日）：13時半/英語：16時
 〔ホームページ〕 <http://www.daimyomachi-c.or.jp/>
 〒810-0041 福岡市中央区大名2-7-7〔巡〕能古島カトリック教会 ミサ（土）18時
 TEL：092-741-3687 Fax:741-5107 〒819-0012 西区能古弁当 1621-12
 発行責任者：中村 彰 神父

6月 イエスのみこころ 聖母のみこころ

福岡教区年間目標：互いに支え合う交わりの教会となる

大名町教会年間テーマ：互いに支え合う「交わりの教会」となる
Becoming a "Church of communion" and mutual support



5月19日（日）信徒総会が開かれました。大名町教会宣教司牧評議会の各部・アクション団体の担当者による活動報告と予算の説明がありました。参加者は共同体の一員として、熱心に参加しました。

6月のお知らせ

- ◆1日（土）福岡カトリック女性の会総会
- ◆2日（日）9時半ミサ後 ヨゼフ会
- ◆4日（火）、18日（火）、25日（火）
10時・19時
「たとえ話が問いかける」
（レナト神父、寺濱神父）
主催：福岡教区宣教・養成委員会
- ◆10日（月）インチョン教区・
福岡教区司教・司祭交流会
17時 合同記念ミサ（2F大聖堂）
※合同記念ミサには、皆さん参加できます。
- ◆23日（日）9時半ミサ後
DVD上映会とジョン神父の話
テーマ：「海を渡った司祭」
主催：大名町教会宣教司牧評議会
※ どなたでも参加できます。
- ◆30日（日）9時半ミサ後
「典礼を学ぶ」講師：深堀 純 氏
主催：大名町教会宣教司牧評議会
※ みなさん、学びましょう！

ジョン神父の 勉強会

- ◆ジョン神父：日程：毎週木曜日
- *キリスト教入門講座 10時・19時
- *聖書の分かち合い 14時



ゆるしの秘跡：希望される方は、司祭に直接ご相談ください。（定期：毎週土曜日10時～11時半）

福岡教区ベトナム人青年大会

ベトナムの若いカトリック教徒の心を燃やす出来事がありました。青年大会です。旧福岡カトリック神学院で、5月4日（土）に開催されました。テーマは「燃える心 踏み出す足」。

350人を超える若者が集まりました。教会のグループは、大名町、箱崎、浄水通、小倉、直方、水巻、行橋、久留米、大牟田、佐賀、熊本など・・・カトリック信者ではない若者も参加しました。

青年大会は、常に若者にとって、出会い、学び、楽しみ、つながり、分かち合いの場であり、特に人生の意味の鍵であるキリストを見つめる素晴らしい機会です。彼らは、人生の困難を幸せに克服できるように助けてくださいと祈り、同時に、宣教に燃えます。

大会では、二つの柱がありました。精神的な生活を考えることと遊びです。朝、ヨゼフ・アベイヤ司教様とグエン・クオック・トウアン神父様のスピーチは、彼らがキリストとさらに強くつながることになりました。

また、ともに遊ぶことでチームスピリットとお互いのつながりを強めました。最後に感謝のミサに与りました。

大会は閉幕しましたが、大会の喜びは今も若者たちの記憶に残っています。ある若者が「次の大会はいつですか」と尋ねました。若者が非常に強く次回の開催を求めているということ。大会は、6月の炎天下のように若者たちの心を燃やしました。

大名町教会協力司祭
洗礼者 ヨハネ ファム バン チェエン 神父

カトリック大名町教会

第49回信徒総会

5月19日

5月19日(日)、豊嶋玲さんの進行で総会が始まりました。参加者は100人(女性67人、男性33人)でした。中村彰主任神父のはじめの祈りに続き、宮本健郎さんが議長に選出されました。

吉田俊雄信徒会長から、2023年度は、英語とベトナム語のミサ参加者が増加したこと、大名町教会宣教司牧方針である「出向いて行く教会となる」の方針のもと、教会行事が30%増えたこと等の報告があり、続いて、各部とアクション団体の活動報告がありました。



「使命」を掲げ、一年間活動してきた内容と本年度の予算について説明がありました。多くの各部・アクション団体は担当者が一人、ないしは少人数であり、信徒の協力者を募っているとの報告がありました。

アクション団体から評議員への選出については、評議員の選出方法も含めて検討していきたいとのことでした。



営繕部から、高圧ケーブルの更新工事について説明がありました。高圧ケーブルの耐用年数は30年程度であるが、現在38年を経過していて、劣化が進むと全停電となるので、教会周辺の近隣にも迷惑がかかるので、工事をすることが了承されました。

立て看板・掲示板検討委員会からの報告で、教会の建物がカトリック大名町教会と一目でわかる表示にすること、劣化の激しい掲示板を作り替えることの提案が、スクリーンを使って説明され、了承されました。本年度の大名町教会のテーマを福岡教区と同じ「互いに支え合う『交わりの教会』となる」にすることが了承されました。本年度のスケジュールは、拍手をもって承認されました。引き続き、2023年度の会計収支報告と2024年度の予算について

ての説明がありました。ミサ献金の54%は外国語ミサ献金であったとの報告があり、拍手にて承認されました。教区分担金や営繕工事予算等の説明があり、拍手にて承認されました。教会の名称を「大名町カトリック教会」から「カトリック大名町教会」に統一すること、それに伴い運営規則等の名称の改正の説明があり、意義なく承認されました。



すべての議事が終了し、ジョン神父の終わりの祈りで閉会しました。今回は、大型スクリーンを利用しての議事事項や説明が行われ、今後も生かせるのではないかと考えられました。



なお、議事録は教会内掲示板に掲示されていますので、「ご覧ください」。

力を出しあって掃除をしましょう!

カトリック大名町教会共同体には、AからDグループまで、掃除グループは4つあります。日曜日九時半のミサの後、割り当てられたグループで教会の掃除をすることになっています。誰にも4週間に一度、掃除担当が回ってきます。7年前にどのグループでも大体同じ人数になるように割り振った掃除割です。

信徒数が減り、高齢化が進む中で、掃除に取り組んでくださる方が固定化してきています。いつも同じ方々が取り組んでいます。その方だけにお任せするのはなく、掃除ができる方、当番の日には、積極的に掃除の奉仕をお願いします。

教会の建物は私たち共同体の家であり、共同体と共に神さまはいらつしやいます。みんなで力を出しあいましょう。

◆掃除のグループ

- Aグループ…中央区、博多区
- B…東区、城南区、新宮町、粕屋町
- C…西区、早良区、篠栗町
- D…南区、古賀市、大野城市、春日市、太宰府市、糸島市、筑紫野市、宗像市



第1回ベトナム人青年大会 * 燃える心 踏み出す足

5月4日(土)、旧神学校で「燃える心 踏み出す足」をテーマに、第一回ベトナム青少年福岡大会が開催され、約400人のベトナム人の若者、家族が参加しました。

みなさんが一緒に踊ったり、司教様、ベトナム人神父様の話を聞いたり、チームビルディングのゲームをしたりしました。最後は感謝のミサが行われました。みなさんが一番盛り上がったのは、ベトナム人神父様の「燃える心 踏み出す足」



様の「燃える心 踏み出す足」についての話でした。

参加者に話を聞きました。

福岡での1回目が閉幕しました。私たちはこの大きな大会に貢献する小さなきっかけになれたことをとても嬉しく幸せに感じました。まず神に感謝します。あなたが私たちをここに集めてくれたので、大会を開催するという夢がかなえられました。きょう、それが実現しました。

私たちの一緒に集まりたい望みは、長い年月を経て、陽気な雰囲気と若々しくバイタリティに満ち、熱意に満ちた「ファイヤーハート」にしてくれました。

司教様と神父様のとても良くて有意義な分かち合いで、異国の地での悲しみや心配をすべて忘れさせてもらいました。

ベトナム人グループが 聖母行列

5月26日



5月の聖母月にヴェトナムでは、3人の子どもに出現されたファチマの聖母を記念します。たくさんのお花と行列でみんなでお祝いします。



区青年 教青

おいでよ「カタラント」へ



福岡教区青年センター「カタラント」の通常開放が始まりました。カタラントは福岡カテドラルセンターの一階に設置され、月、木、土曜日の決まった時間にスタッフが常駐し、場所を開放しています。

カタラントは組織ではなく、センターの名前です。「カタラ」とは「語る」ことで、博多弁では「参加する」ということでもあり、「カタラント」は「賜物」という言葉であることから「カタラント」と名づけられました。いつでも安心して集え、一人ひとりの居場所となることを目指しています。同じ信仰をもつ青年同士の交わりが、今後の信仰生活への支えにもなると思います。始まって1ヶ月程度ですが、いつも10人弱が集まり、楽しく過ごしています。ベトナムやインドネシアの青年が訪れてくれた日もありました。まだまだ試行錯誤の連続です。また、この場所は大名町教会でもあるので、みなさまにご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、どうぞご理解していただき、温かく見守っていただければ幸いです。



ミカエラ 荒牧 結花

夏に咲く花を植えました

5月22日、教会前の歩道の花壇にまだ咲いていたパンジーとビオラの苗をすべて抜き、土を耕しました。抜いた苗は、数株ずつビニル袋に入れ、「ご自由にお持ち帰りください」と、育てられる人にお渡ししました。

23日には、福岡市から配られた308株の花植えをしました。ポーチユラカとインパチェンス。小さな方の花壇に換算して25個分もある教会の花壇。どの花壇にもほぼ同じようになる株数と花の色の組み合わせを考え、25列に分けました。

この花壇には、隅に注水口があり、そこから大量の水を注ぐと、水は花壇の底にあるパイプから土に水が吸い上げられるしくみになっていきます。しかし、25個もの花壇に注水するには、1時間以上かかります。

植えた花の苗には、上からも水やりが必要です。22日には8人、23日には12人の方が力作業に精を出しました。新しい花になった花壇をご覧ください。そして、これから高温になっていく中で、花が生き続けられるように、ジョウロで水をかけてください。



宣教司牧評議会

(5月12日)

◆ 議題

- 1 信徒総会の議事の流れ、役割分担、時間配分などの確認。
- 2 駐車場問題の課題整理と対応策の検討状況について中間報告。
- (1) 利用している信徒が感じている問題点、課題を整理することから始めて、解決策を検討する。
- (2) 英語ミサグループからの提案で、英語ミサでは、6月から在籍ステッカーをダッシュボードに置くこととする。
- (3) ジョン神父様から、韓国の教会では、自動車番号認識システムの導入による管理が行なわれていること、「満車」のサインは必要であるとの報告があった。
- 3 一階講堂使用の行事日程調整について
- 今年度も各部、各アクション団体で多数の行事等が予定されているので、円滑な運営ができるよう、十分な日程調整を行う。
- 4 リンサークリーナー購入について
- 絨毯掃除用としてリンサークリーナー(12000円)の購入が承認された。
- 5 その他
- スクリーンとパソコンの貸し出しは、部屋の使用願いの申請時にスクリーン使用の有無の記載欄を設けて決済する。
- パソコンの貸し出しは行わない。

◆ 報告事項 ★ 各部報告事項

- (1) 典礼部
 - ① 7月7日初聖体式式るときに、信徒全員で歌のプレゼントをする。
 - ② ジョン神父様から定期的に子ども向けの説教はできないかとの意見があった。
- (2) 営繕部
 - ① 屋上塔屋漏水補修工事完了 957,000円
 - ② 屋上塔屋漏水補修追加工事 49,500円
 - ③ その他
 - ・高圧ケーブル・高圧交流中閉閉器更新「工事の見積。
 - ・「緑石補修」工事現地調査について。
 - (3) その他
 - ① 世界広報の日献金 5月5日 38,410円
 - ② 能登地震支援献 5月8日 (ベトナム語ミサ) 87,661円
 - ③ フイリピンへの援助活動のため、一階信徒会館に荷物を一時的に集めること。
 - ④ 美野島司牧センター30周年記念行事のバザー依頼品の仕分けについて。
 - ・寄付された物を搬送した。

大名町教会の現勢 5月

【転入】ようこそ

- ・ミカエラ 妻 孝恩(ベ ヒョウン)
- (広島教区・祇園教会より)



ご飯のパックを作りました



NPO 法人ホームレス支援「おにぎり」の会(事務長 大名町教会の飛永薫さん)。

冬には路上生活をしている方々を助ける方々を支援するために、おにぎりや豚汁の炊き出しをしています。春から秋にかけては、毎月、順番で市内の教会に弁当作りを依頼して、作ってもらって配ります。

この5月には、大名町教会に弁当作りの依頼がありました。5月17日(金)午後から作ることにしました。信徒のみなさんに協力を呼びかけましたが、今回は、目良信子さん、鈴木尚美さん、原山映子さんの三人が、199個の弁当を作ってくださいました。

白米を焚いて、炊きあがったご飯を160g×180gになるように、パックに入れ、上に鮭フレークをかけました。生活に困っている方、食べる物に困っている方の少しでも力になりたいと思いい、神さまのお恵みがあるように祈りながら作られたと思います。

これからも、私たちにできることは、協力していきたい。

主日②「週ごとの「復活祭」

私たちは、一年に一度「復活祭」を盛大に祝いますが、毎週、主日(日曜日)に集うのも「主の復活」を祝うためです。主キリストが復活して使徒たちにお現れになり、今も生きて共におられることを、毎週集って喜び祝うのです。主日は週ごとに巡ってくる「復活祭」です。教会の最初の時から主日に集うことはキリスト信者の信仰の根源・中心であり、歴史的にも年に一度の「復活祭」よりもずっと前からあり、はるかに重要な日です。

主は、十字架上で亡くなられて三日目、すなわち週の初めの日の朝、マグダラのマリアに現れてご自分の復活を使徒たちに知らせるように言い、ついでその日の夕方、集まっていた使徒たちにお現れになりました。またその日の夕方、エマオへ向かっていた二人の弟子にお現れになって道を共にされ、宿屋でパンを割いてご自分だと明かされました。それからさらに八日目に再び使徒たちに現れ、1週間前に一緒にいなかったトマスにご自分を現わされました。こうして、使徒たちとその後に続く信者たちは、八日目ごとに集ってこの復活を記念することを大切にし、次代へとつないでいきました。

使徒たちの時代から数百年を経て、この主日を基にして、年に一度、三日をかけて盛大に「主の死から命への超越祭」を祝うようになりました。第二バチカン公会議はこの間のことを簡潔にこう言います。「毎週、教会は『主日』と呼ばれる日に主の復活を記念し、それを年に一度、復活祭の盛儀によって主の幸いな受難と死とともに祝っている」(「典礼憲章」102)と。

ミカエル 深堀 純